

洋上管理(OCEANIC MANAGEMENT)

洋上管理では日本と各国間を飛行する航空機や福岡FIR(飛行情報区)を通過する航空機の管制業務を実施している。洋上セクターの管轄範囲は陸地から概ね200km以遠の太平洋上に大きく広がる空域となっている。かつて航空会社がそれぞれ任意の経路で飛行していた時代には、各社の経路が輻輳したり、接近しすぎたりしたため、交通量が増加すると、空域の効率的な活用が難しい状況となった。

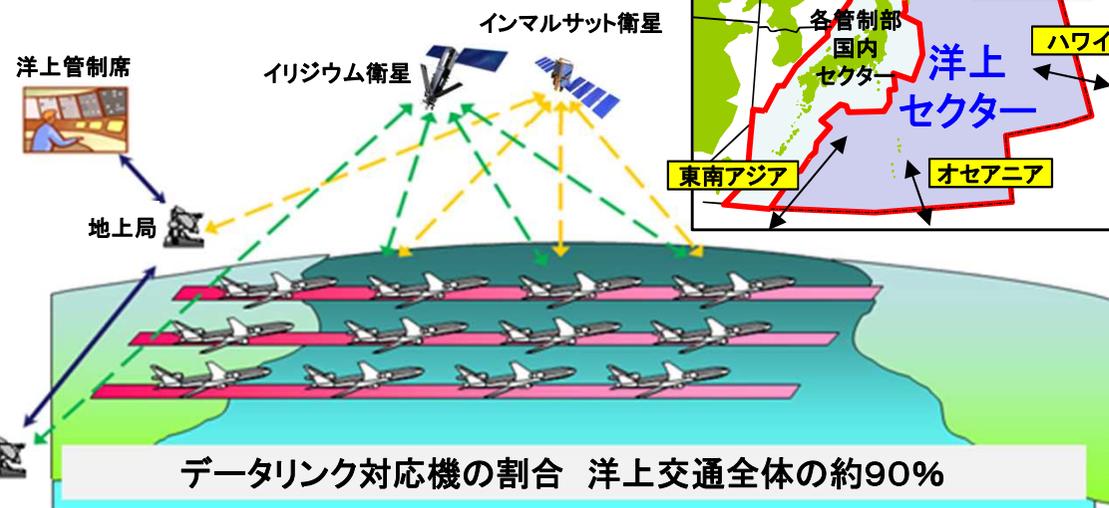
現在では空域管理(ASM)担当が高層風(ジェット気流)の変化に応じて経済性の高い飛行経路を日毎に設定するPACOTS(Pacific Organized Track System)を利用して効率的かつ安全な可変経路による運用を行うとともに、運航者が一定の条件下で運航機材、運航時刻、気象状況の変化等を考慮して作成する経路(UPR)による飛行方式及び運航者が最新の気象状況等に基づき飛行中の航空機の経路変更を行う方式(DARP)を導入している。

また、太平洋上の空域においては人工衛星を利用した通信・監視技術により、データリンク対応機に対しては管制間隔を短縮した効率的な洋上管制業務を実施している。

今後も更なる効率的な交通流の実現、空域の有効活用及び容量拡大を目指し、UPR、DARPの適用区域拡大や新たな管制方式導入について、隣接する外国管制機関と連携して検討を進める。

人工衛星利用による太平洋上での管制業務のイメージ図

- ◆データリンクによる管制業務の実施
航空機の位置通報、高度変更の要求・承認など
- ◆管制間隔の短縮 ⇒ 空域容量の拡大



効率的な飛行経路の設定の例

